



優秀賞



作品概要

作品名——新宿中央公園 眺望のもり創出
所在地——新宿区西新宿二丁目11番
発注——新宿区
設計——株式会社グラック
設計協力——株式会社アーク設計事務所
施工——株式会社 昭和造園
設計期間——2019年7月～2020年3月
施工期間——2020年9月～2021年2月
規模——約7,200㎡
主要施設——眺望テラス、樹林広場、エントランス広場、散策路、休憩施設、滝のライトアップ施設 他

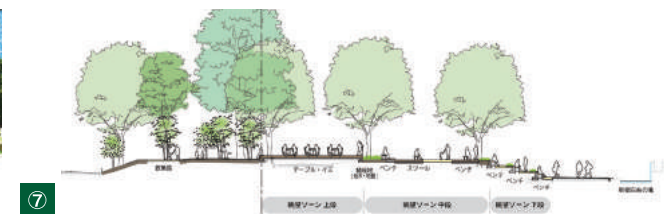
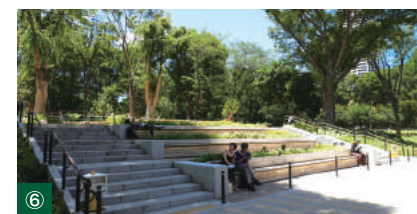
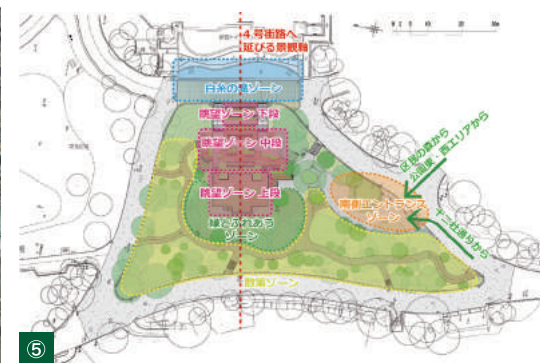
作品評

新宿中央公園は、西新宿の都庁をはじめとする超高層ビル群の一角にある緑豊かな新宿区有数の都市公園であり、公園内には多様なエリアが配置され、オフィスワーカーや親子連れなど多くの利用者に親しまれている。

一方で、「新宿中央公園魅力向上推進プラン」に基づき各エリアの再整備が進められているところでもあり、本作品も既存のポテンシャルを活かした魅力ある空間の再生が求められた。

応募者は、他エリアとの連続性や既存の地形・樹林・水景等の特性を丁寧に検討しながら、JR 新宿駅西口からの都市軸上の立地を意識した配置と動線の再構成を行い、国際観光都市・新宿の新たな名所となるダイナミックな眺望と夜間景観を楽しむ場をつくり出している。

再整備後は既に整備されたエリアとも相乗して、都会のオアシスらしい居心地良い空間となっており、昼夜問わず利用者が多いことが本作品の最高の評価になっていると言える。



①眺望ゾーン中段 ②眺望ゾーン上段 ③眺望ゾーン上段からの夜景 ④計画対象地位置図 ⑤ゾーニング図
⑥眺望ゾーン下段／開放的・対称的なデザインで上部の眺望ゾーンへの期待感を高める
⑦眺望空間断面構成 ⑧南側エントランス／間口を大きく広げ迎え入れる
⑨眺望空間と散策ゾーンをシームレスにつなぐ樹林広場 ⑩南側エントランスのウォールで憩う人々

新宿中央公園 眺望のもり創出

株式会社グラック

高橋彩・北川明介・田丸真菜（元社員）・植原睦美

「眺望のもり」は新宿区が策定した「新宿中央公園魅力向上推進プラン」（平成29年9月）において、ビル群への眺望を活かす空間として、早期実現を目指す取り組みのひとつに位置付けられていました。

計画地は新宿駅西口から延びる4号街路の都市軸の延長線上に位置し、街路の東西に立ち並ぶ高層ビルを眺めるビューポイントとなる十分なポテンシャルを持つ場であることから、ミッションである「眺望空間の創出」のため、2つの植栽帯を集約して一体的な空間とし、4号街路へと延びる景観軸を空間

構成軸として、軸線上に「白糸の滝ゾーン」「眺望ゾーン」「緑とふれあうゾーン」「散策ゾーン」を配置し、既存地形や既存植栽を活かしながら、場のポテンシャルを最大限に引き出す空間構造の組立てを行いました。

眺望空間の創出

滝前の園路側から計画地の中央部にかけて、現況地形を活かし、眺める対象・見え方、空間の設けが異なる3つの眺望空間（上段・中段・下段）を創出しました。

シームレスにつながる空間デザイン

周囲の園路どこからでもスムーズに眺望のもりに迎え入れる動線計画としました。特にエントランスは周辺エリアからの接

続性を意識し、南側エントランスは大きく広げた間口の両側にゆるやかにカーブするウォールを立ち上げたデザイン、眺望ゾーン下段は開放的・対称的かつ上部の眺望ゾーンへの期待感を高めるデザインとしました。

眺める空間という明確な意図を持って直線的にデザインした眺望ゾーンと、既存の大径木に囲まれた自然度の高い曲線的にデザインした散策ゾーンをシームレスにつなぐ空間として樹林広場を配し、質の異なる空間がグラデーションのように違和感なく移行するデザインとしました。

賑わいと憩いを生むしかけ

【夜景を楽しむ場づくり】高層ビルの夜景との連続性を意識した白糸の滝の演出照明、眺望のもり自体も夜を楽しむ空間となる演出照明を行いました。

【好きな場所を選んで座れる憩いの場づくり】いたるところに座ることのできる場所を用意し、過ごし方、眺めたい景色、その日の気分などのシチュエーションに合わせて選択できる場をつくりました。

【飲食が楽しめる憩いの場づくり】南側エントランスの広い間口空間を活用して、キッチンカーを止められるスペースを確保し飲食が楽しめる憩いの場づくりを行いました。